

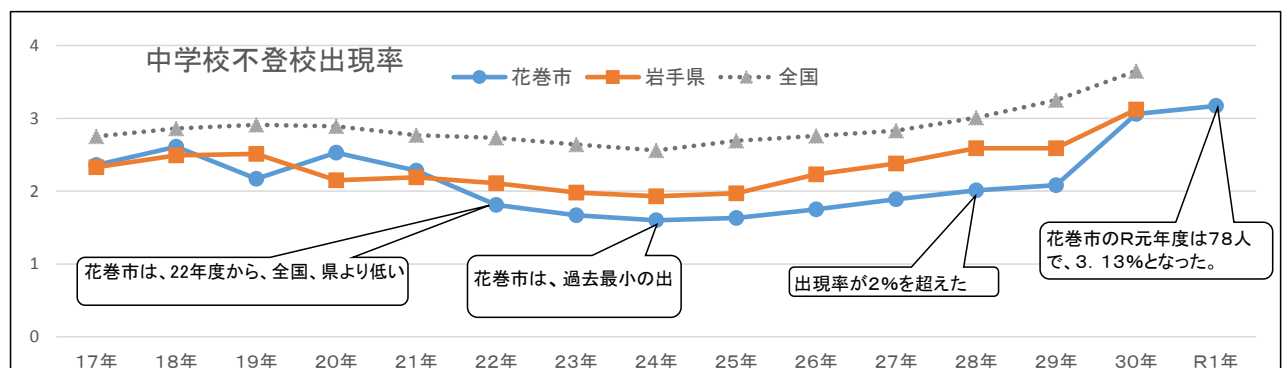
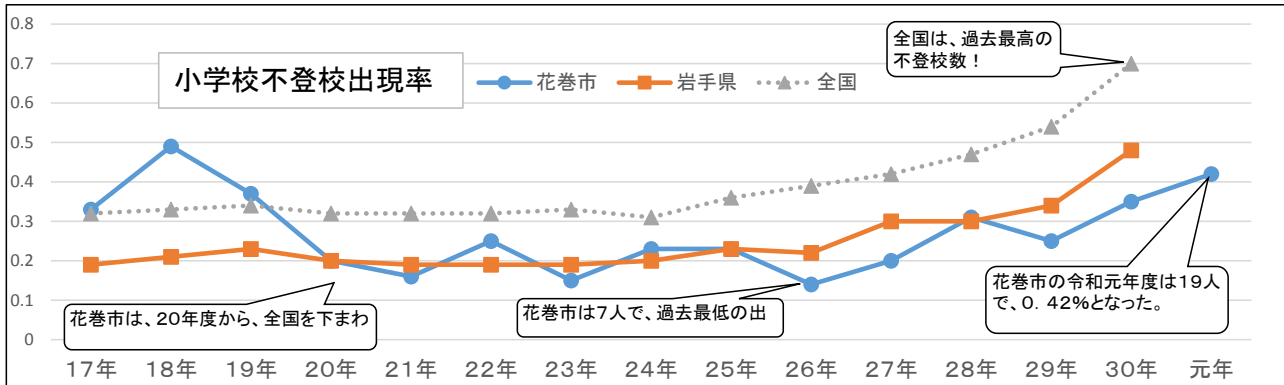
令和元年度不登校児童生徒の実態

(問題行動等調査の結果より)
令和2年3月

【1 不登校児童生徒の推移】

年間30日以上欠席数(病気、事故欠除く)

	小学校			中学校		
	花巻市(%)	岩手県(%)	全国(%)	花巻市(%)	岩手県(%)	全国(%)
平成17年度	19 (0.33)	145 (0.19)	22709 (0.32)	75 (2.36)	995 (2.33)	99546 (2.75)
平成18年度	28 (0.49)	158 (0.21)	23825 (0.33)	82 (2.61)	1038 (2.49)	103069 (2.86)
平成19年度	21 (0.37)	169 (0.23)	23927 (0.34)	67 (2.17)	1024 (2.51)	105328 (2.89)
平成20年度	11 (0.20)	146 (0.20)	22652 (0.32)	76 (2.53)	998 (2.51)	104153 (2.89)
平成21年度	9 (0.16)	137 (0.19)	22327 (0.32)	67 (2.28)	847 (2.19)	100105 (2.77)
平成22年度	14 (0.25)	138 (0.19)	22463 (0.32)	50 (1.81)	789 (2.11)	97428 (2.73)
平成23年度	8 (0.15)	133 (0.19)	22622 (0.33)	48 (1.67)	734 (1.98)	94836 (2.64)
平成24年度	12 (0.23)	134 (0.20)	21243 (0.31)	46 (1.60)	705 (1.93)	91446 (2.56)
平成25年度	12 (0.23)	153 (0.23)	24175 (0.36)	47 (1.63)	710 (1.97)	95442 (2.69)
平成26年度	7 (0.14)	143 (0.22)	25864 (0.39)	49 (1.79)	791 (2.23)	97033 (2.76)
平成27年度	10 (0.20)	189 (0.30)	27583 (0.42)	52 (1.89)	829 (2.38)	98408 (2.83)
平成28年度	15 (0.31)	183 (0.30)	30448 (0.47)	54 (2.01)	876 (2.59)	103235 (3.01)
平成29年度	12 (0.25)	201 (0.34)	35032 (0.54)	55 (2.08)	843 (2.59)	108999 (3.25)
平成30年度	16 (0.35)	283 (0.48)	44841 (0.70)	79 (3.06)	975 (3.12)	119687 (3.65)
令和元年度	19 (0.42)			78 (3.13)		

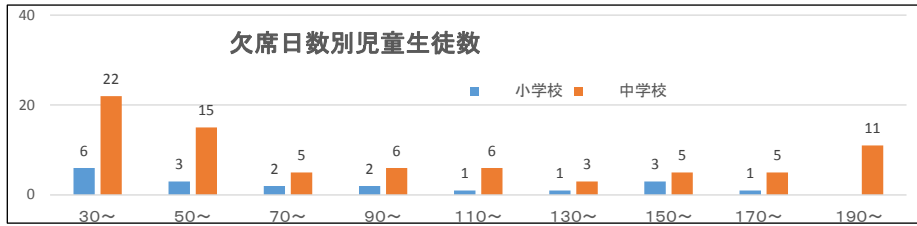


<小学校>R1年度は、昨年度より3人増え19人となった。出現率は0.42となり出現率がH18年度以降最高となった。
 <中学校>R1年度は、昨年度より1人減り78人となったが、出現率は3.13となり、中学校も出現率が過去最高となった。

【2 欠席日数別児童生徒数】

(令和元年度)

	30~49	50~69	70~89	90~109	110~129	130~149	150~169	170~189	190~	計
小学校	6	3	2	2	1	1	3	1	0	19
中学校	22	15	5	6	6	3	5	5	11	78
計	28	18	7	8	7	4	8	6	11	97



不登校の欠席日数別にみると、30日以上50日未満が一番多く、日数が多くなるほど人数は減少するが、150日以上から(長期欠席)また増加する。グラフがU曲の現象となって表れている。

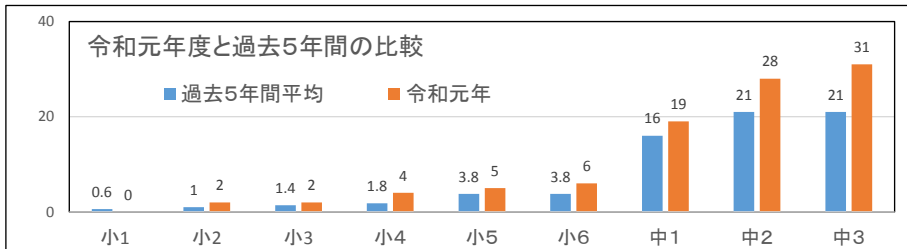
【3 学年別不登校児童生徒数】

(1) 学年別不登校数の推移

※欠席日数30日以上

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
令和元年	0	2	2	4	5	6	19	28	31	97
平成30年	1	1	2	2	5	5	25	33	21	95
平成29年	1	0	2	1	4	4	18	17	20	67
平成28年	1	1	2	3	3	5	14	16	24	69
平成27年	0	1	1	1	5	2	9	18	25	62
平成26年	0	0	0	2	2	3	14	21	14	56

学年別では、小学校は学年が進むにつれて微増傾向にある。中学校は、1年生で急増し、2年、3年と進むにつれ増加している。※中学校の不登校生徒のうち、6年生で15日以上欠席した生徒は30%いる。小学校6年間で15日以上欠席した学年がある生徒は、46%いる。不登校の兆候はすでに小学校から表れている。



令和元年度は、過去5年間で比較どの学年も増加している。中学校2年、3年が例年より多い。

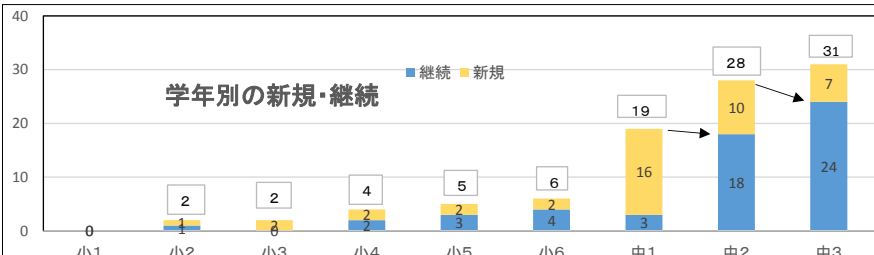
(2) 学年別の新規・継続数

(令和元年度)

新規=昨年度の欠席日数が30日未満 継続=昨年度の欠席日数が30

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
継続	0	1	0	2	3	4	3	18	24	55
新規	0	1	2	2	2	2	16	10	7	42
計	0	2	2	4	5	6	19	28	31	97

不登校の総数は、小学校、中学校とも昨年度と比べれば大きな増減はみられない。中学は1年生で新規が増える。2年、3年と継続が増えていく。1年生で新規の生徒が改善されずに2年、3年と継続しているためである。

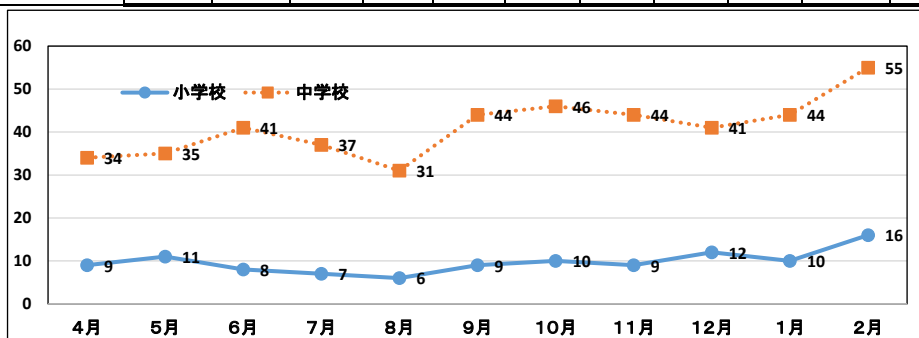


【4 月別欠席報告者数】

月7日以上欠席した人数

※毎月の欠席状況報告より

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	9	11	8	7	6	9	10	9	12	10	16	休校
中学校	34	35	41	37	31	44	46	44	41	44	55	休校



<小学校>
2月は多かったがそれ以外は大きな変動は特にはない。

<中学校>
年間の中で、6月、10月、2月に増加している。(例年と同じ傾向)特に2月は急増した。2月は例年、体調不良等(風邪等)での欠席者が増える。

【5 新規の月別報告者数】

月7日以上欠席した新規の報告者人数

※令和元年度 毎月の欠席状況報告より

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
小学校	2	1	3	1	2	6	4	3	2	2	1	0	27	小学校全体比
1年	1年				1	1							1	4%
	2年					1				1			2	7%
	3年	1				1	1						3	11%
	4年	1		1		2	2		1		1		8	30%
	5年			2		1	1	2					6	22%
	6年		1		1	1	1	1	1	1			7	26%
中学校	8	2	1	6	2	8	8	8	3	7	0	0	53	中学校全体比
中1	中1		1	1	4	4	3	2	2	5			22	42%
	中2	4	1		1	4	4	5		1			20	37%
	中3	4			1	2	1	1	1	1			11	21%

小学校は、9月10月ごろに、新規の不登校が多く報告されている
 中学校は、新規報告者53人のうち、22(42%)が1年生で、一番多い。(例年、新規は1年生が一番多く、中学校全体の半数近くの報告がある)
 中学生の特徴は、2年生、3年生は4月から新規が報告され、1年生は7月から2学期にかけて新規が多く報告されている。

【6 不登校と家庭環境】

	不登校数			<不登校経験> 過去に15日以上 の欠席がある	<経済面> 要・準要保護	<養育環境> 母子・父子家庭	<不登校経験> ・過去に15日以上 の欠席があった割合 は小中学校合わせた 全体の75%である。 <経済面> ・小中学校合わせた 全体の14%が、就 学援助を受けている。 <養育環境> ・養育環境として、 母子家庭、父子家庭 は小中学校合わせた 全体の27%とな っている。昨年度は 33%であった。 ※過去に欠席が多い 児童生徒は、不登 校になりやすく、 経済面より養育環 境の方が影響して いると言える。
	継続	新規	計				
小学校1年	0	0	0	0	0	0	
2年	2	1	1	1	0	0	
3年	2	0	2	1	0	0	
4年	4	2	2	3	1	3	
5年	5	3	2	5	1	1	
6年	6	4	2	4	0	0	
計	19	10	9	14(73%)	2(10%)	4(21%)	
中学校1年	19	3	16	9	4	5	
2年	28	18	10	22	5	10	
3年	31	24	7	28	3	8	
計	78	45	33	59(75%)	12(15%)	23(29%)	
全体	97	55(70%)	42(43%)	73(75%)	14(14%)	27(27%)	

※過去に15日以上ある欠席者＝小学校は小学校全体の73% 中学校は中学校全体の75%
 ※要・準要保護 ＝ 小学校は小学校全体の10% 中学校は中学校全体の15%
 ※母子・父子家庭 ＝ 小学校は小学校全体の21% 中学校は中学校全体の29%

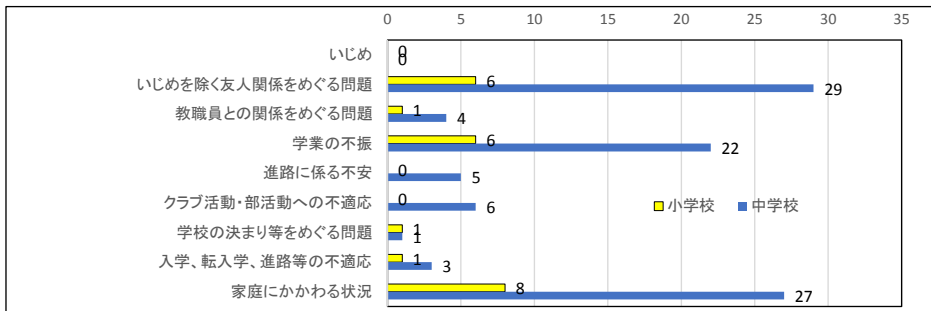
【7 不登校のきっかけ・原因】

※下記の数値は、複数選択された数値である。

	いじめ	ぐ友い る人 間関 係め ぐる 問題 を除 く	題係 を職 教員 とめ ぐる 問題	学業 の不 振	進路 に係 る不 安	適活 をク ラ ブ 動 へ 活 動 の 不 動	等学 校の 決 ま り 問 題	不学 入 適 進 路 転 等 入 の	家 庭に か か わ る 状 況	無 気 力 不 安 ・ 生 活 リ ズ ム
小学校	0	6	1	6	0	0	1	1	8	22
中学校	0	29	4	22	5	6	1	3	27	49
合計	0	35	5	28	5	6	2	4	35	71

<小学校>
 学校内では、友人関係、学業、家庭環境が多い。

<中学校>
 学校内では、人間関係、学業が主な不登校のきっかけとなっている。昨年度もいじめと学業が多かった。ただ、中学校も、その背後には家庭環境も影響している。



※家庭環境が影響していると考えられるもの
 ・保護者の疾病疾患、・保護者の登校刺激なし、・夫婦間のトラブル、・兄弟姉妹の不登校、・欠損家庭

【8 指導結果の状況】

(1) 年度内に、不登校が改善された人数

※「改善された人数③」とは、前年度は不登校だった児童生徒が、今年度は30日未満の欠席となったもの

※「新規」は、前年度のみ不登校、「継続」は、前年度、前々年度と複数年度と不登校が継続している

	前年度からの継続①	今年度新たな不登校②	今年度改善された人数③	最終の不登校④
平成26年度	33人	23人	10人(継続2人+新規8人)	56人
平成27年度	33人	29人	10人(継続5人+新規5人)	62人
平成28年度	31人	38人	10人(継続2人+新規8人)	69人
平成29年度	27人	40人	19人(継続5人+新規14人)	67人
平成30年度	38人	57人	9人(継続2人+新規7人)	95人
令和元年度	55人	42人	20人(継続4人+新規16人)	97人

- ・令和元年度は、4月の年度初めは、前年度からの継続が75人(前年度不登校95人-卒業生20人)いたが、新たに不登校42人(②)が増え117人となったが、20人(③)が改善されたため、最終の不登校数は97人(④)となった。
- ・令和元年度の「改善された人数」20人のうち、継続(H30, R1と継続して不登校)が4人、新規(H30年のみ不登校)は16人である。
- ・平成26年度から令和元年度まで、昨年度が一番多く改善された(20人)。過去、すべて「新規」の方が多く改善されている。

(2) 令和元年度の不登校児童生徒の内、登校できるようになった人数

	小学校	中学校
指導の結果、登校する又はできるようになった児童生徒	3人	42人
指導中の児童生徒	16人	36人
(うち継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒)	(6人)	(16人)
計	19人	78人

小学校は、登校できるようになった人数は3人で、小学校全体の16%にあたる。

中学校は、登校できるようになった人数は42人で、中学校全体の54%にあたる。半数が登校できるようになった。

【9 不登校で相談・指導等を受けた学校内外の機関】

※不登校97人が対象 複数回答

	小学校	中学校	計
不登校児童生徒数	19人	78人	97人
<学校以外の機関への相談>	10人	46人	56人
適応指導教室	2人	10人	12人
市教委・教育センター	5人	4人	19人
児童相談所・福祉事務所	0人	5人	5人
保健所・保健福祉センター	0人	0人	0人
病院、診療所	6人	35人	41人
民間施設	0人	7人	7人
上記以外	1人	3人	4人
<学校内の相談>	16人	43人	73人
養護教諭	6人	11人	17人
スクールカウンセラー	13人	38人	51人
<すべてに相談指導をしない>	3人	15人	19人

<学校以外>

・小学校、中学校とも、医療機関と連携しての対応が一番多く、小学校は6人(32%)で3人に1人の割合、中学校は35人(49%)でほぼ半数が連携している。

・小学校、中学校ともに、適応指導教室や市教委・教育センターが相談機関として利用されている。

<校内>

スクールカウンセラーとのかかわりが多い。小学校は13人(小学校全体の78.1%)、中学校は38人(中学校全体の49%)であった。

<相談指導しない>

小学校 3人(小学校全体の16%)
中学校 15人(中学校全体の19%)